

## 平成26年度 別府大学特別強化事業 「命のプロジェクト(防災・減災・救急法教育)」

森 宗一

Souichi MORI

### 事業目的

本プロジェクトは文部科学省が定める、防災教育支援の基本的考え方に則り、大学内、地域のみならず、様々な機会・場を通じて①それぞれが暮らす地域の、災害・社会の特性や防災科学技術等についての知識を備え、減災のために事前に必要な準備をする能力、②自然災害から

身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る能力、③進んで他の人々や地域の安全を支えることができる能力、④災害からの復興を成し遂げ、安全・安心な社会を構築する能力、といった「生きる力」を涵養し、能動的に防災に対応することのできる人材を育成するためにを行った。

### 実施内容

国際経営学部必修科目である「リスクマネジメント」において、「クライシスマネジメント・防災学・救急法」について「組織」「マネジメント」という視点から教育をおこない、座学だけではなく、実際の活動も行った。実際の災害について学習し、対策や避難時に必要なことなどを学習している。

- ① 災害時の避難場所への経路確認と現地確認  
学生各自が避難場所へ赴き、経路や避難時の問題点、施設の収容可能人数等を調べ、日常においても災害の危険性を考える活動を行った。
- ② 防災避難訓練への参加  
大学で行われる防災避難訓練を利用し、問題点や改善点等を自ら考えさせる。
- ③ 福岡市民防災センターでの体験学習  
ここでは、暴風、震度7の地震、消火器訓練、火災現場からの脱出訓練等を行い、日常では体験することができない、災害を体験した。
- ④ 救急法  
傷病者の搬送練習、回復体位の練習と心肺蘇生法（以下CPR）の訓練を行った。CPRにおいては、119番通報した後、救急車が現場へ到着する全国平均時間は8.1分、大分県の平均は7.3分であるため、各グループのメンバー交代で7分以上の心臓マッサージと人工呼吸の訓練を実施した。



写真1 震度7 地震体験



写真2 心肺蘇生法訓練用機器